

第59次 日教組全国学校事務研究集会(高知集会)

8月3日(金)～5日(日)の3日間、テーマ「持続可能な社会をめざし、子ども・地域の新たな未来を見つめた学校事務の実現を」のもと、第59次日教組全国学校事務研究集会が高知市にて開催されました。今年も全国から多くの事務職員が集まり、福井県からは12名の事務職員が参加しました。

1日目の全体交流会では、楽しい会話を通して他県の事務職員との交流を図ることができました。

2日目午前中の全体会では、日教組事務研推進委員長 藤村正美さんからの基調報告の後、日教組事務職員部 薄田綾子部長から「事務職員関係法改正」「働き方改革」「教育予算」「賃金」等についての中央情勢報告がありました。続いて、文科省学校業務改善アドバイザーの妹尾昌俊さんから『本気で進める学校の働き方改革と事務職員の役割』という演題で講演が行われました。「学校の



姉尾さんによる講演

働き方改革がなぜ必要なのか」「学校事務職員への期待と現実」について、働き方改革をさらに進めるための業務改善、心構えや意識改革など、大変勉強になる講話となりました。



2、3日目の分科会では、実践事例をもとに、各県の事務職員の現状や様々なとりくみについて話し合われました。第4分科会「学校事務職員制度の確立をめざして」では、吉田支部上志比小分会の三反崎直広事務職員が「初任者に対する支援体制について」というテーマで発表しました。指導事務職員や非常勤職員など、福井県における初任者に対する支援体制の改善と課題について報告しました。その他の分科会においても今後の事務職員のあり方について活発な意見交換が行われ、有意義な時間となりました。



分科会